

高等学校

指導事例 1 エイズ・性感染症

対象：第1学年

教科等：保健体育科

★教育課程上の位置付け

保健体育科「現代の感染症とその予防」

(1) 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 現代社会と健康について理解を深めること。

(イ) 現代の感染症とその予防

感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。

1 単元の目標

- (1) 感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られ、その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解することができるようにする。
- (2) 現代の感染症とその予防について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができるようにする。

2 単元について

小学校体育科保健領域では、病原体が主な要因となって起こる病気の予防について学習し、中学校保健体育科では、感染症は病原体が主な要因となって発生すること、感染症の多くは「発生源をなくすこと」、「感染経路を遮断すること」、「主体の抵抗力を高めること」によって予防できることを学習している。それらを踏まえて、高等学校においては、感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られることやその予防のためには、個人の取組や社会的な対策を行う必要があることを学習する。

また、感染症の予防について、課題を発見し、健康や安全に関する原則が概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができるようにすることが必要であることについて指導する。

本単元では、感染症の予防について理解することにより、生涯を通じて感染症の予防に必要なことを考えることができるようにしていきたい。

3 単元計画

時間	学習内容
1	現代の感染症 ○感染症について、様々な背景によって流行に影響していること。 ○新興感染症や再興感染症、さらに新たな感染症の出現に関すること。
2	感染症の予防
3	○感染症の予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。

4 (本時)	<p>エイズ・性感染症</p> <p>○エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策に関すること。</p>
-----------	--

4 本時の指導（全4時間中の4時間目）

(1) 目標

- ・ エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解することができるようにする。(知識)
- ・ 感染症の予防について、事例を通して整理したり、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策の適切な方法を選択したりするとともに、それらを他者に表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 感染症の予防について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 エイズの歴史や現在の感染状況を知る。</p>	<p>○ICT機器を使用し、レッドリボンの写真や感染状況のグラフを見せる。</p> <p>○レッドリボンがエイズのために使われた経緯を踏まえ、エイズの歴史や現在の感染状況を説明する。</p> <p>○新規HIV感染者・エイズ患者報告数、検査・相談件数推移について説明する。(厚生労働省、公益財団法人エイズ予防財団)</p>
展開① (10分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>エイズ・性感染症の原因や予防するための対策について考えよう</p> </div> <p>2 エイズの発生動向から、その原因と人々の意識について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>グラフを見て、どのようなことに気づきましたか。</p> </div> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染者数は増え続けている。 ・HIV感染者は増えているがエイズ患者数は横ばい。 	<p>○数名の生徒に発表させる。</p> <p>○ICT機器を使用し、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省エイズ動向委員会の近年の新規感染者数の推移 ・エイズの主な感染経路、潜伏期間、症状等 ・現在のエイズの治療法

展開② (20分)	<p>3 エイズ以外の性感染症について調べ、ワークシートに記入し、発表する。</p> <p>4 エイズ・性感染症について理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> エイズ・性感染症を予防するための対策にはどのようなことがありますか。 </div> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンドームを使用する。 ・容易な判断で性的接触をしない。 	<p>○性感染症の病原体、潜伏期間及び主な症状をワークシートに記入させ、数名の生徒に発表させる。</p> <p>○梅毒、ヒトパピローマウイルス感染症、性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症等について説明する。</p> <p>○対策をワークシートに記入させ、数名の生徒に発表させる。</p> <p>○ICT機器を使用し、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性感染症とは性的な接触によって感染する感染症のこと。 ・症状が出ないものや潜伏期間が長いものがあるため、感染に気がつきにくく、感染が広がりやすい特徴があること。 ・パートナーと一緒に検査と治療を行わなければ、感染を繰り返すこと。(ピンポン感染) ・未治療で放置すると、不妊の原因になることや母子感染の可能性があること。 <p>〔個人ができる対策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンドームを正しく使うこと。 ・不特定多数の人との性的接触を避けること。 <p>〔社会における対策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な医療を受けられる環境を整備すること。 ・保健所では、HIV検査とエイズに関する相談を無料・匿名で行っていること。 ・保健所では、コンドームの正しい使用方法の説明を行っていること。 <p>◆【知識・技能】</p> <p>エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。(観察・ワークシート)</p>
--------------	--	---

ま と め (5 分)	<p>6 本時の学習の振り返りとまとめをする。</p> <p>本時で学んだことを振り返り、エイズや性感染症を学習したことから、予防するためには何が必要であるかをまとめてみよう。</p>	<p>○各自でワークシートにまとめさせる。</p> <p>・エイズや性感染症について正しく理解することは、自分やパートナーを感染から守る適切な行動につながることをおさえる。</p>
-----------------------------	--	--

5 指導のポイント

本単元の「現代の感染症とその予防」は、特別活動のホームルーム活動の内容項目（2）オ「生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立」と関連付けて指導することが考えられる。例えば、題材を「感染症の予防を考えよう」と設定し、本単元で身に付けた知識をもとにホームルーム内で話し合い、個人としての意思決定を経て、実践への動機付けを図ることができる。

また、総合的な探究の時間において、例えば、生徒の興味・関心に基づく課題として、「健康：心身の健康とストレス社会の問題（健康）」を探究課題として設定し、横断的・総合的な学習として、保健での「現代の感染症とその予防」に関する学習内容との関連を図った課題の解決や探究活動を行うことが考えられる。

教科等	主な学習内容・学習活動
保健 体育	<p style="text-align: center;">現代社会と健康</p> <p>現代の感染症とその予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解する。 ・ 感染症の予防について、事例を通して整理するとともに、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策の適切な方法を選択する。 ・ 感染症の予防について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組む。

教科等横断的な指導の工夫

教科等	主な学習内容・学習活動
特別 活動 ★	<p style="text-align: center;">多様な性について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ L G B T、S O G I (S O G I E) の意味や性には多様性があることを知り、誰もが暮らしやすい社会をつくるためには、差別や偏見なく互いを尊重することが大切であることについて理解する。

エイズ・性感染症等の原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策の必要性、性的マイノリティについて理解することができる。

また、他者の価値観や個性を受け入れ、自己の生き方について考えることを通して、多様な生き方を尊重し、人間関係を築くことができる態度を育成することが期待できる。

指導事例 2 多様な性について考えよう

対象：第3学年

教科等：特別活動

★教育課程上の位置付け

特別活動 ホームルーム活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

Ⅰ 青年期の悩みや課題とその解決

心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする。

1 題材の目標

性の多様性についての理解を深め、すべての人が暮らしやすい社会の在り方や社会の一員としての自己の在り方について考えることができるようにする。

2 題材について

近年、性の多様性についての社会的関心が高まっている中で、全国の20～59歳を対象とした企業等によるインターネット調査においては、性的マイノリティの割合は3～9%という調査報告が挙げられている。また、性的マイノリティのうち、58%は学齢期においていじめ被害の経験があることが国内研究（LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」：日高庸晴 2017）で示されている。

性の多様性について理解し、誰もが暮らしやすい社会の在り方について考えることを通して、一人一人の性の在り方を尊重する態度を育成することをねらいとする。

3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
LGBTやSOGI（SOGIE）、法律や制度、活動等、各自で性の多様性に関するテーマを決めて調べ、まとめる。	○調べた内容によりグループを分ける。 ○性的マイノリティ当事者の心を傷付けることがないように、言動に配慮する。

4 本時の指導

(1) 目標

LGBT、SOGI（SOGIE）の意味や性には多様性があることを知り、誰もが暮らしやすい社会をつくるためには、差別や偏見なく互いを尊重することが大切であることについて、理解することができるようにする。

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 LGBTに関するリーフレット等を見ながら、多様な性について考える。	○事前学習で調べた内容をいくつか紹介し、関心を持たせる。

性の多様性を理解し、誰もが暮らしやすい社会について考えよう		
さぐる 見つける	2 一人一人の性の在り方は多様であることを理解する。 3 グループワークを行う。 ・事前学習で調べた内容について一人ずつ発表する。 ・発表を聞いて分かったこと、もっと知りたいことについて話し合う。 ・社会に求めるもの、自分たちができることについて話し合う。 4 グループごとに代表者が発表する。 ・発表を聞いた感想をワークシートに記入する。	○性の在り方には主に4つの要素があり、誰もが「SOGI」というグラデーションの中にいる。一人一人の性は平等に尊重されるべきものであることを説明する。 ○性的マイノリティとされる人がこれまで自分の周りにいなかったのではなく、言えなかつただけかもしれないことに気付かせ、日頃から自分の言動を意識するよう伝える。 ○自分たちが気付いた課題についても話し合うよう促す。 ○多様な性への理解を深め、自他を尊重することが大切であり、一人一人が関心を持って自分たちにできることを考えることが、よりよい社会づくりにつながるということに気付かせる。
	5 学習内容を振り返り、自分ができることについて考え、ワークシートに記入する。	○自分のこととして捉え、社会の一員としてできることは何かを考え続けることが大切であることを知らせる。 ○困ったことがあればいつでも相談することをさりげなく伝える。

5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
調べてまとめた内容をグループで模造紙に書き、校内に掲示する。 性の多様性に関する記事等を探し、学級や学校全体で紹介する。	○性的マイノリティに関する社会の動き等に関心を持たせ、社会の一員としてできることについて考えさせる。

6 指導のポイント

性的マイノリティの当事者がいるかもしれないことを想定し、言動に配慮するとともに、理解者であることを発信し、必要に応じて個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する。また、相談を受けた場合は、組織的に取り組むことが重要である。

⑩



多様な性について考えよう

年 組 番 氏名

() 班 メンバー ()

1 他の人の発表内容から新たに気付いたことについて記入しましょう。

--

2 発表を聞いて分かったことや気付いた課題について記入しましょう。

—自分の意見—	—グループの意見—
---------	-----------

3 1、2を踏まえて、社会に求めるものや自分たちができることについて話し合しましょう。

社会に求めるもの	
—自分の意見—	—グループの意見—
自分たちができること	
—自分の意見—	—グループの意見—

4 自分が望む社会の在り方やそれを実現するために、今後自分ができるところを記入しましょう。

—自分が望む社会の在り方—	
—今後自分ができるところ—	

指導事例 3 思春期と健康

対象：第2学年

教科等：保健体育科

★教育課程上の位置付け

保健体育科「生涯を通じる健康」

(3) 生涯を通じる健康

生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。

(ア) 生涯の各段階における健康

生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。

イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

1 単元の目標

- (1) 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解することができるようにする。
- (2) 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを説明することができるようにする。
- (3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由を話し合ったり、ノートに記述したりして、筋道を立てて説明するなどの学習活動に主体的に取り組むことができるようにする。

2 単元について

生涯を通じる健康については、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深める指導を行う単元である。

生涯の各段階においては、健康に関わる様々な課題や特徴があることから、生涯にわたって健康に生きていくためには、生涯の各段階と健康との関わりを踏まえて、適切な意思決定や行動選択及び社会環境づくりが不可欠であることを理解させる。

そのため、思春期、結婚生活、加齢の各段階において、健康、行動、生活等に課題や特徴があること、また、労働の形態や環境の変化に伴った健康及び安全の課題があることを踏まえ、自他の健康管理を行う必要があることについて学習していく。

なお、指導に当たっては、発達段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ること等に配慮することが大切である。

⑪

3 単元計画

時	学習内容
1 2 (本時)	思春期と健康 ○思春期における心身の発達や性的成熟に伴い、健康課題が生じること。 ○自分の行動や異性への理解及び尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であること。
3 4 5	結婚生活と健康 ○結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣等が関わること。 ○結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感等や母子の健康診査等の活用が必要であること。 ○家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響に関すること。
6 7	加齢と健康 ○中高年期を健やかに過ごすためには、若い時から、健康診断の定期的な受診等の自己管理を行うこと等が関係すること。 ○高齢期には、加齢に伴い、変化する心身の機能や形態には個人差があること。 ○疾病や事故のリスクが高まり、健康の回復が長期化する傾向にあること。 ○高齢社会では、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること。

4 本時の指導（全7時間中の2時間目）

(1) 目標

- ・ 思春期には、自分の行動や異性への理解及び尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解することができるようにする。
(知識)
- ・ 思春期と健康について、健康に関わる原則や概念をもとに整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に、主体的に取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点	◆評価
導入 (5分)	1 単元の流れと学習内容を確認する。	○単元の流れを踏まえる。	
	自分の行動や異性への理解、性に関する情報等の適切な対処を考えよう		
	2 異性を尊重することへの配慮が欠けて起こること、男女の性意識に違いがあることを知る。		

展 開 （ 40 分）	<p>思春期は、異性に対する関心の高まりとともに、誤解やトラブルが生じやすくなります。背景には、どのような違いがあると思いますか。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肉体関係を結びたい。 ・ ロマンチックな憧れがある。 ・ 個人差、年齢差を理解していない。 ・ 相手を尊重していない。 ・ ストーカー行為 ・ セクシュアルハラスメント行為 ・ 性的マイノリティ（LGBTQ） <p>4 不正確な性情報にまどわされないようにすることを理解する。</p> <p>性に関する情報をどこから、どのように入手していますか。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動の先輩から教えてもらう。 ・ スマートフォンで検索して、情報を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男女の違いをノートへ記入させ、内容をグループで共有し、グループごとに発表させる。 ○ ICT機器を使用し、説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本性教育協会『青少年の性行動』（2018年）の結果 ・ 性意識に違いがあることを理解していないことにより、性に関する様々なトラブルが起こる可能性があること。 ・ ストーカー行為とは、相手の気持ちを考えずに交際を迫ったり、相手を尾行し、付きまとう、待ち伏せしたりするなどの行為を指す。法律で規制されており、ストーカー行為をした者には罰則が適用されること。 ・ セクシュアルハラスメントとは、他の人を不快にする性的な言葉や行為で相手に苦痛を与えること。 ・ LGBTQに関すること。 <ul style="list-style-type: none"> L：レズビアン → 女性の同性愛者 G：ゲイ → 男性の同性愛者 B：バイセクシャル → 両性愛者 T：トランスジェンダー → 出生時と異なる性別で生きる人 Q：クエスチョニング → 自分自身のセクシュアリティを決められない、分からない。 ○ 相談できる関係機関として、和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”等を紹介する。 ○ 入手方法をノートへ記入させ、内容をグループで共有し、グループごとに発表する。 ○ ICT機器を使用し、性情報の主な情報源や入手方法は、「友達、先輩」に次いで「学校（先生、授業、教科書）」、「インターネット、アプリ、SNS」であることをおさえる。 ○ 意見をノートへ記入させ、グループで共有し、グループごとに発表する。
-------------------------	--	--

	<p>・中学校の保健体育科の授業で学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友人から「交際している人の誘いを拒んだら、相手に嫌われるのではないか」と相談された場合、あなたはどのように答えますか。</p> </div> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからない。 ・信頼できる先生に相談する。 ・信頼できる機関に相談する。 ・インターネットで情報を入手する。 ・相手に本当の自分の気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本性教育協会『「若者の性」白書第8回 青少年の性行動全国調査報告』2019年の「性向についての情報源」、「避妊についての情報源」を確認する。 ○主な相談先となる関係機関を紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・産婦人科、思春期クリニック、児童相談所 ・女性センター、チャイルドライン ・子ども的人権 110 番 ・よりそいホットライン、よりそいチャット ・相談ほっと LINE <p>◆【知識・技能】</p> <p>思春期には、自分の行動や異性への理解及び尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (観察・ノート)</p> <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>思春期と健康について、健康に関わる原則や概念をもとに整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。(観察・ノート)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ (5分)</p>	<p>5 本時の学習内容を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時で学んだことを振り返り、性意識の男女差、相手への理解と尊重の必要性、性行動の正しい選択には何が必要であるかをまとめてみましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○各自でノートにまとめさせる。 ○性意識の男女差や不正確な性情報にまどわされず、正しい性行動を選択するとともに、相手を尊重し、多様な性の在り方を認めることの大切さについておさえる。

教科等	主な学習内容・学習活動
保健 体育	<p>生涯を通じる健康</p> <p>思春期と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期には、自分の行動や異性への理解及び尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて理解する。 ・ 思春期と健康について、健康に関わる原則や概念をもとに整理するとともに、個人及び社会生活と関連付け、自他や社会の課題を発見する。 ・ 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に主体的に取り組む。

教科等横断的な指導の工夫

教科等	主な学習内容・学習活動
特別 活動 ★	<p>よりよい人間関係について考えよう（デートDV）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性をめぐるトラブルの一つであるデートDVについて、正しく理解し、被害者や加害者になることのないよう、互いの人権を尊重した人間関係を築くための行動を考える。
特別 活動 ★	<p>青年期の欲求と葛藤を話そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性に関する様々な問題を踏まえ、青年期における興味や将来について話し合い、よりよい人間関係や対処方法を考え選択する。

性行動には責任が生じることや性意識の違いに伴うセクシュアルハラスメント等の問題について理解することができる。

また、個人で考えたり、グループで話し合ったりすることを通して、性差や個人差があることに気付き、相手を尊重した適切な意思決定や責任ある行動選択のための能力や態度の育成が期待できる。

指導事例4 よりよい人間関係について考えよう

対象：第1学年

教科等：特別活動

★教育課程上の位置付け

特別活動 ホームルーム活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

イ 男女相互の理解と協力

男女相互について理解するとともに、共に協力し尊重し合い、充実した生活づくりに参画すること。

1 題材の目標

人間尊重の精神に基づく男女相互のよりよい人間関係の在り方について理解を深め、自他の人権を尊重した行動がとれるようにする。また、自ら状況を正しく判断し、対処できるようにする。

2 題材について

高校生は、身体的な成熟に伴い性的な興味関心が高まる時期であり、交際をする生徒も少なくない。一方で、人間関係づくりが未熟であり、相手に対して強引に自分の思いを押しついたり、束縛したりするなど、デートDVが身近で深刻な問題となっている。男女交際の在り方を改めて考え、交際相手との間で、暴力の被害者にも加害者にもならずに対等な関係を築けるよう、互いの人権を尊重し、自他を大切にすることを育むことをねらいとした。

3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
デートDVについてアンケートに記入する。	○自分たちがデートDVであると認識していないことであっても、デートDVに当てはまることに気付かせる。

4 本時の指導

(1) 目標

性をめぐるトラブルの一つであるデートDVについて正しく理解し、被害者や加害者にならないよう、互いの人権を尊重した人間関係を築くための行動を考えることができる。

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 事前アンケートの結果を振り返る。	○デートDVは他人事ではなく、身近な問題であることに気付かせる。

	2 デートDVの事例を読み、本時のねらいを確認する。	
	デートDVの被害者や加害者にならないためにできることを考えよう	
たづねる	3 デートDVについて知る。	○実際に辛い思いをしている原因が暴力であることに気付いていないことも多いため、具体例を提示しながら説明する。
	4 事例を通してグループで考える。 ・DVに該当する部分にアンダーラインを引き、どのDVに当てはまるかを話し合う。 ・BのようにデートDVをしないために、AのようにデートDVをされないために気を付けることを考え、話し合う。	○活動の様子を見ながら、全体に問いかけ、理解できている部分や関心のある部分を確認しながら進める。 ○親密な間柄でも嫌なことは嫌と言う、相手が嫌と言うことはしないという対等な関係を築くことが大切であり、暴力は絶対に許されないことであることをおさえる。 ○誰もが加害者又は被害者になり得ることを確認する。
見つける	5 グループで話し合った内容を発表し、共有する。	○一人で解決することが難しい場合が多いため、信頼できる大人や関係機関に相談することが大切であることをおさえる。
決める	6 自分がデートDVの加害者や被害者にならないための行動について、ワークシートに記入する。	○自分にとって身近な問題として捉え、適切な行動ができるようにすることが大切であることを伝える。 ○配偶者暴力防止法について説明する。

5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
ワークで考えた吹き出しを紹介する。	○デートDVのみならず、性犯罪・性暴力を防止する社会を皆でつくるという意識を高められるようにする。
性犯罪・性暴力等に関する相談窓口等を調べ、情報を発信する。	

6 指導のポイント

授業の導入では、辛くなった場合は我慢せず、申し出るように伝えるとともに、授業終了後には、個別相談につなげることができる体制を整備する。その際、地域の相談機関等の情報についても提供する。デートDVが社会問題になっている状況を踏まえ、学校全体でデートDVに関する理解を深めることが重要である。

性に関する学習 事前アンケート(例)

このアンケートは、性に関する学習に役立てるために行います。自分の思っているとおりに答えてください。結果は人数等で集計しますので、個人が特定されることはありません。

あなた自身や周りの人と交際相手との関係として、以下の項目で思い当たるものにチェックを入れましょう。

- メールやLINE等の返信が遅いと言って怒ったり不機嫌になったりする。
- 勝手にスマホや携帯の中身をチェックする。
- GPS機能のあるアプリを入れて行動を監視する。
- 他の異性と話さないように約束させる。
- 束縛は愛情の証だと言う。
- デートのために友達との約束やアルバイト等大事な予定をキャンセルさせる。
- 自分の思うようにならないと不機嫌になったり怒ったりする。
- 怒ったり、優しくなったりを繰り返す。
- 自分の好みの服装や髪型を押しつける。
- 相手が傷付く言葉を言う。
- 体型や容姿についてけなしたり、嫌なことを言ったりする。
- 別れたら〇〇すると脅す。
- 腕等を強い力で握ったり、引っ張ったりする。
- 物を投げつける。
- つき飛ばしたり、引きずったりする。
- 無理矢理お金を出させる。
- アルバイトを辞めさせる。
- 嫌がっているのに体を触る。
- 避妊に協力しない。
- 裸の写真を送ってほしいと要求する。

★デートDVについて知っていますか？（○をつけましょう）

【 内容も知っている ・ 聞いたことがある ・ 全く知らない 】

よりよい人間関係について考えよう（デートDV）

年 組 番 氏名

★事例

A（高校1年）は、先輩のB（高校2年）に片想いの未告白し、交際して3か月が経ちました。AはBからの連絡が待ち遠しく、メールにはすぐに返信をし、着信があるとすぐに出ていました。

ある日、Aは部室に携帯を忘れ、その晩はBから連絡があったのではないかと気が気ではありませんでした。翌日、学校へ行くとBの機嫌が悪く、「日曜の予定を決めようと思ったのに、なんでメールに返信しないだよ！」と言われました。「ごめん、携帯を忘れたの」と謝っても「なんで忘れるんだよ！」と机を蹴って怒鳴られました。

そしてある時、クラスの男子生徒と話していたら、Bに「おい！」と腕を引っ張られ、「いい気になるなよ！」と携帯を取り上げられ、メールのチェックもされるようになりました。

また、放課後にクラスの女子と話していてBを待たせた時もすごく不機嫌になり、一度機嫌が悪くなると数日間は機嫌が悪いBに対してAは、携帯を肌身離さず持ち歩くようになりました。

それからは、友達という時もメール等で呼び出されるとすぐにBのもとへ走って行くようになり、次第に友達とも疎遠になってしまいました。

毎日、放課後はBの家に行き、ずっと一緒に嬉しい反面、いつもBの顔色をうかがっている自分に嫌気がさし、Aを見下す言い方に傷つくこともあります。

しかし、Aは、二人でいる時は優しいBと別れることは考えられないし、友達にも今さら相談しづらく、教室でも一人でいることが増えてきました。

① デートDVだと思うところはどこですか？グループで話し合ってみましょう。

該当するところに線を引き、どの暴力に当たるのかを記入しましょう。



② BのようにデートDVをしないために、AのようにデートDVをされないために、どのようなことに気を付ければよいでしょうか、また、どのような行動をすればよいでしょうか。

デートDVをしないために・・・

デートDVをされないために・・・

⑪

③ 今日の学習で気付いたこと、自分が考える対処法について記入しましょう。

④ 次の会話で、Aさんはどのように答えたらよいでしょうか。

空白の吹き出しに入る言葉を考えてみましょう。

B  今度の土曜日に一緒に映画を見に行くから予定を入れるなよ。

えっ、もう友達と遊ぶ約束してしまったから無理だよ。 **A** 

B  それ、キャンセルしろよ。友達とどっちが大事なんだよ！！

A 

B  Aの気持ちは分かったよ。ごめん……。映画は別の日に行こう。

⑤ よりよい人間関係を築くために、今後、自分はどのように行動したいかを考えて記入しよう。

デートDV（ドメスティック・バイオレンス）とは

若年層の男女における暴力のことを言い、相手を怖がらせたり、傷付けたりするなどして自分の思い通りに支配する行為です。身体的暴力、精神的暴力、社会的暴力、経済的暴力、性的暴力の5つの種類があります。

	暴力の種類	相手を尊重し、対等な関係になるため
身体的暴力	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を叩いたり、蹴ったりする。 ・物を投げつける。 ・相手を部屋や家から出させない。 ・髪の毛をつかんで引っ張ったり、噛みついたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対に（どんなに軽い力であっても）殴らない。 ・物に当たったり、投げつけたりしない。 ・相手を拘束しない。
言葉の暴力や心理的、精神的暴力	<ul style="list-style-type: none"> ・腹が立つと、大声で怒鳴る。 ・相手を繰り返し批判したり、否定したりする。 ・いつも皮肉やいやみを言う。 ・気に入らないことがあると、無視し続ける。 ・友達の前で、批判したり、侮辱したりする。 ・相手の大切なものを壊す。 ・相手も秘密をばらすと言っておどす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大声を出して怒らない。 ・絶対にえらそうにしない。 ・相手の話を否定せずに、聴き合う。 ・お互いが安心して自分の思いや「NO」が言える関係になる。 ・相手を攻撃するような話はやめる。 ・片方がびくびくし、気を遣ってばかりいる関係にしない。 ・別れ話の時には、辛くても怒らずに耐える。
束縛などの社会的暴力	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が他の人と仲良くしているのを見ると嫉妬し、責める。 ・二人一緒にいるのが当たり前で、相手が他の誰かと会うのを怒ったり、断らせたりする。 ・相手の行動等をチェックする。 ・携帯電話の履歴を勝手に見たり、電話番号やアカウントを削除する。 ・好きだったら、愛情表現として束縛してもよいし、嫌なことでも応じるべきだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・嫉妬の感情があっても、相手の自己決定や自由な行動や成長を妨害しない。 ・恋愛していても異性の友人はOKであるため、友人関係の邪魔をしない。 ・恋愛以外の人間関係と活動を充実させ、それを応援し合う関係になる。 ・恋人を自分の「もの」と思わない。 ・束縛をしない。 ・恋人間でも隠し事はあってもよいため、プライバシーを大事にする。
経済的暴力	<ul style="list-style-type: none"> ・デートの費用等を相手に払わせる。 ・借りたお金を返さない。 ・お金を出して、えらそうにしたり、嫌なことを強制したりする。 ・バイトやお金を借りることを強制する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対等でない金銭のやり取りはしない。 ・金銭をねだったり、搾取したりしない。 ・お金で相手を強制しない。
性的暴力	<ul style="list-style-type: none"> ・断っても強引に性関係をもとめようとする。 ・避妊をしない。 ・応じないと不機嫌になったり、冷たくしたりする。 ・相手が嫌がるのに同意なく体を触ったりキスをしたりする。 ・ポルノ雑誌やDVD等を無理矢理見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がよいと思っても、相手が嫌がったらしてはいけない。 ・同意のない性的行為は性暴力であり、性暴力は著しい人権侵害であるだけでなく、犯罪行為でもある。

<参考>

「もしかして、デートDV？「知ってほしいな、ホントに大切なこと」（和歌山県）

指導事例 5 青年期の欲求と葛藤について話そう

対象：第2学年

教科等：特別活動

★教育課程上の位置付け

特別活動 ホームルーム活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長および健康安全

オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立
節度ある健全な生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

1 題材の目標

心身の発達や性に関する健康課題について適切に把握し、よりよい解決に向けて主体的に話し合い、自他の身を守り尊重する態度が必要であることを理解することができるようにする。

2 題材について

性情報が氾濫する現代社会においては、科学的なデータ等を活用しながら性に関する問題を的確に把握し、よりよく解決する資質や能力を育成する必要がある。これまで各教科で学習してきた性に関する指導内容を振り返り、青年期における欲求と葛藤や将来への展望について話し合い、よりよい人間関係について理解を深めるとともに、自己の行動に責任を持つことができる態度を育むことをねらいとする。

3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
性に関する指導に係る既習内容を振り返る。	○性感染症・妊娠、中絶、避妊の現状についてデータ等をもとに確認する。
テーマ「性」、「交際」、「将来」を設定し、各グループで話し合いたい内容等について事前アンケートを記入する。	○アンケート結果と実態に合わせて、グループワークのテーマを設定する。

4 本時の指導

(1) 目標

性に関する様々な問題を踏まえ、青年期における興味や将来について話し合うことを通して、よりよい人間関係や対処法について考え、適切に選択することができるようにする。

⑪

決める	5 授業全体を振り返り、今後、どうしていきたいかをワークシートに記入する。	○日常生活においても意識し、継続していくよう促す。
-----	---------------------------------------	---------------------------

5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
発表後の感想等についてグループやクラス全体で交流する。	○出た意見は批判せず受容した上で、意見を踏まえ、考えるように促す。

6 指導のポイント

学習内容について学校全体で共通理解を図るとともに、授業前には保護者の理解を得る。また、生徒の実態を確認し、個別相談の体制を整備する。さらに、グループワークを行う際には、テーマや方法等を十分検討し、人間関係を構築するためには、個々の意思を大切に互いに理解を深め、相手の人格を尊重することの大切さに気付くことができるような工夫が必要である。

指導事例 6 結婚生活と健康

対象：第2学年

教科等：保健体育科

★教育課程上の位置付け

保健体育科「生涯を通じる健康」

(3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。

(ア) 生涯の各段階における健康

生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。

イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

1 単元の目標

- (1) 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解することができるようにする。
- (2) 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを説明することができるようにする。
- (3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由を話し合ったり、ノートに記述したりして、筋道を立てて説明するなどの学習活動に主体的に取り組むことができるようにする。

2 単元について

生涯を通じる健康については、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深める指導を行う単元である。

生涯の各段階においては、健康に関わる様々な課題や特徴があることから、生涯にわたって健康に生きていくためには、生涯の各段階と健康との関わりを踏まえて、適切な意思決定や行動選択及び社会環境づくりが不可欠であることを理解させる。

そのため、思春期、結婚生活、加齢の各段階において、健康、行動、生活等に課題や特徴があること、また、労働の形態や環境の変化に伴った健康及び安全の課題があることを踏まえ、自他の健康管理を行う必要があることについて学習していく。

なお、妊娠のしやすさを含む男女それぞれの生殖に関わる機能については、必要に応じ関連付けて取扱う程度とする。

⑫

3 単元計画

時	学習内容
1 2	思春期と健康 ○思春期における心身の発達や性的成熟に伴い健康課題が生じること。 ○自分の行動や異性への理解や尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であること。
3 4 5 (本時)	結婚生活と健康 ○結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣等が関わること。 ○結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感等や母子の健康診査等の活用が必要であること。 ○家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響に関すること。
6 7	加齢と健康 ○中高年期を健やかに過ごすためには、若い時から、健康診断の定期的な受診等の自己管理を行うこと等が関係すること。 ○高齢期には、加齢に伴い、変化する心身の機能や形態には個人差があること。 ○疾病や事故のリスクが高まり、健康の回復が長期化する傾向にあること。 ○高齢社会では、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること。

4 本時の指導（全7時間中の3時間目）

(1) 目標

- ・ 結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には、年齢や生活習慣等が関わることを理解することができるようにする。(知識)
- ・ 結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらを話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて説明することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に、主体的に取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 単元の流れと学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 受精、妊娠、出産と聞くと、どのようなことを連想しますか。 </div> <予想される回答> ・ 親になる。 ・ つわりや陣痛が怖い。 ・ 晩婚化によって、高年出産が増えている。	○単元の流れを踏まえる。 ○ブレインストーミングにより、多様な考えが出るようにする。

受精、妊娠、出産に伴う健康課題について考えよう	
展開 (40分)	<p>2 受精と妊娠について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>妊婦とその家族が、妊娠中に注意すべきことはどのようなことですか。</p> </div> <p><予想される回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飲酒 ・ 薬の服用 ・ 生活習慣の乱れ <p>3 出産と母体の回復について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>出産後、家族でできる母親へのサポートはどのようなことですか。</p> </div> <p><予想される回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤ちゃんの世話をする。 ・ 家事の分担をする。 ・ 相手の話を聞き、寄り添う。 <p>4 母子保健サービスについて知る。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母子健康手帳のこと。 ・ 妊婦健康診査のこと。 ・ 両親学級(母親学級)のこと。 ・ 保健医療サービスのこと。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 注意点をノートへ記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。 ○ ICT機器を使用し、妊娠の過程と妊娠成立、妊婦と胎児の状況、健康被害について説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠が確認できる時期 ・ 妊婦が特に気を付けなければならない、喫煙・飲酒・食事・X線・薬の服用等のこと。 ・ 妊婦だけでなく、家族も理解しておかなければならないこと。 ○ サポート内容をノートへ記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。 ○ ICT機器を使用し、説明をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出産過程と産後の母体の回復のこと。 ・ マタニティブルー(産後うつ)とは、女性が妊娠中や出産直後に一時的に気分が落ち込んだり、不安になったりすること。 ・ 良好な人間関係や家族や周りの人からの支援が大切であること。 ・ 不妊治療のこと。 ○ 妊娠のしやすさについては、必要に応じて関連付けて扱う程度とする。 ○ ICT機器を使用し、説明する。

⑫

		<p>◆【知識・技能】</p> <p>結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には、年齢や生活習慣等の関わりについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(観察・ノート)</p>
まとめ (5分)	<p>5 本時の学習内容を振り返る。</p> <p>出産後、本時で学んだことを振り返り、妊娠中や産後の結婚生活を健康に過ごすためには何が必要であるかをまとめてみよう。</p>	<p>○各自でノートにまとめさせる。</p> <p>・妊娠の過程、妊婦の健康課題等を振り返る。</p>

4 本時の指導（全7時間中の4時間目）

(1) 目標

- ・ 結婚生活における、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について、理解することができるようにする。（知識）
- ・ 結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらを話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて説明することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に、主体的に取り組むことができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 単元の流れと学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分がイメージする将来設計はどのようなものでしょうか。</p> </div> <p><予想される回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 20歳頃に働き始めてしばらく経ってから結婚 ・ 子供の数は2～3人くらい ・ 子供の年齢は2～3歳差 	<p>○前時までに学習した内容を確認する。</p> <p>○将来設計をノートに記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。</p>
展開 (35分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>家族計画の意義や望まない妊娠を避けるためにとるべき行動を考えよう</p> </div> <p>2 家族計画を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>家族計画を行う上で、どのようなことに注意すればよいでしょうか。</p> </div> <p><予想される回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夫婦で子供の人数等を話し合う。 ・ 仕事や経済的なことを踏まえて計画する。 ・ 年齢や健康面に考慮する。 <p>3 避妊法の特徴について知り、どの避妊法を選択すべきかを考える。</p>	<p>○注意点をノートに記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。</p> <p>○ICT機器を使用し、母体の健康状態、出産年齢、出産間隔、生育環境、住居環境、仕事、ライフサイクル等も踏まえた計画の重要性を説明する。</p> <p>○ICT機器を使用し、避妊法の種類と特徴、望まない妊娠について説明し、ノートに記入させる。</p>

	<p>4 人工妊娠中絶について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母体保護法のこと。 ・女性の心身への負担のこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で確実な方法である、コンドームと低容量ピルの特徴 ・緊急避妊法のアフターピルやIUDの特徴 ・避妊を行わない不確かな避妊法によって望まない妊娠は、多くなっていること。 ・オギノ式、基礎体温、膣外射精については、不確実であること。 <p>○ICT機器を使用し、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「厚生労働省『衛生行政報告例』2019年」の、妊娠満12週以降に人工妊娠中絶を実施した割合について ・やむを得ない理由があり、限られた妊娠期間内に手術等により胎児を母体外に出すことが法律で認められていること。(母体保護法) ・女性の心身に非常に大きな負担を与えること。 <p>◆【知識・技能】</p> <p>結婚生活における家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について、理解したことを言ったり書いたりしている。(観察・ノート)</p> <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらを話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて説明している。(観察・ノート)</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>5 本時の学習内容を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本時で学んだことを振り返り、結婚生活を健康に過ごすための家族計画には、何が必要であるかをまとめてみよう。</p> </div>	<p>○各自でノートにまとめさせる。</p> <p>○家族計画、避妊法、人工妊娠中絶を振り返り、ノートをまとめさせる。</p>

4 本時の指導（全7時間中の5時間目）

(1) 目標

- ・ 結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感等や母子の健康診査等の活用が必要であることを理解することができるようにする。（知識）
- ・ 結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらを話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて説明することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に、主体的に取り組むことができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 単元の流れと学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">結婚できる年齢は何歳でしょうか。</div> <p><予想される回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男性18歳、女性16歳 ・ 男女ともに18歳 	<p>○前時までに学習した内容を確認する。</p> <p>○数名の生徒に発表させる。</p> <p>○民法では、男女とも18歳になると結婚できるとされていることを確認する。</p> <p>○2022年に民法が改正〔改正前は男子18歳、女子16歳〕されたことをおさえる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">自他の健康に対する責任感等や母子の健康診査等の必要性を考えよう</div> <p>2 初婚年齢と初産年齢の推移の傾向を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">初婚年齢と初産年齢には、どのような傾向があると思いますか。</div> <p><予想される回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚年齢（初婚年齢）が高くなっている。 ・ 出産（初産）年齢が高くなっている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">女性の平均初婚年齢が29歳となっている背景は、何だと思えますか。</div>	<p>○傾向をノートへ記入させ、数名の生徒に発表させる。</p> <p>○「厚生労働省_人口動態統計：平均初婚年齢・母親平均出生時年齢推移」で、結婚生活において出産を考える場合、女性の晩婚化は出産（初産）年齢の上昇に大きく影響していることを説明する。</p> <p>○背景をノートへ記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。</p> <p>○女性の平均初婚年齢は29歳とあるが、どのような背景（晩婚化となってきたのはなぜか）があるかを説明する。</p>

展開 (40分)	<p><予想される回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く女性の増加 ・価値観の多様化 ・子供を育てにくい社会 <p>3 良好な生活習慣、人間関係について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 結婚生活を送ることは、夫婦や子供、家族の健康に対して、どのような影響があると思いますか。 </div> <p><予想される反応例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣等を理解しないと体調を崩す。 ・アレルギー体質の確認をする。 ・共通の趣味を持って、休日を過ごし気分転換をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> これまでに学習した、結婚生活における受精、妊娠、出産に伴う心身の健康に対する不安、心配や悩みを緩和したりするものには、どのようなものがあると思いますか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○影響をノートへ記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。 ○ICT機器を使用し、ノートへ記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・パートナーのアレルギー体質や生活習慣病の有無等を確認すること。 ・妊娠中のDV被害は特に注目されており、母体の被害だけでなく、早産や流産、胎児の低出生体重も報告されており、日本でもDV被害のリスクを有する妊産婦は全体の14%以上存在し、特に10代の妊産婦のDV被害が際立って高い頻度になっていること。（日本産婦人科医学会による調査） ・虐待の子供への影響としては、死亡、頭蓋内出血・骨折・火傷等による身体的障害、暴力を受ける体験からトラウマ（心的外傷）を持ち、そこから派生する様々な精神症状（不安、情緒不安定）、栄養・感覚刺激の不足による発育障害や発達遅滞、安定した愛着関係を経験できないことによる対人関係障害（緊張、乱暴、ひきこもり）、自尊心の欠如（低い自己評価）等、様々な内容や程度があること（厚生労働省 第1章 子ども虐待の援助に関する基本事項） ○数名の生徒に発表させる。
-------------	--	--

	<p><予想される反応例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師等の診察や専門家の助言 ・ 夫婦のストレスを解消するためには話し合いや親・友人への相談 ・ 信頼できる病院の支援サイトでの情報収集 	<p>○ ICT機器を使用し、地域において家庭や育児の相談ができる専門機関や配偶者暴力相談支援センター、女性相談センター、児童相談所等のサービスをノートへ記入させる。</p> <p>◆【知識・技能】</p> <p>結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感等や母子の健康診査等の活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>(観察・ノート)</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>4 本時の学習の振り返りとまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時で学んだことを振り返り、妊娠・出産を迎える夫婦が、結婚生活を健康に過ごすためには何が必要であるかをまとめてみよう。</p> </div>	<p>○各自でノートにまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動を促す事例として、スポーツ選手の結婚、妊娠・出産や子育てについて、トピックスを紹介しながら、年齢や生活習慣の多様性と社会的課題について触れるようにする。

5 指導のポイント

本単元の「結婚生活と健康」は、特別活動のホームルーム活動の内容項目(2)イ「男女相互の理解と協力」と関連付けて指導することが考えられる。例えば、題材を「家庭や地域社会における男女相互の理解と協力について考えよう」と設定し、本単元で身に付けた知識をもとにホームルーム内で話し合い、個人としての意思決定を経て、実践への意欲付けを図ることができる。

総合的な探究の時間において例えば、生徒の興味・関心に基づく課題として、「生命の尊厳と医療や介護の現実(生命・医療)」を探究課題として設定し、横断的・総合的な学習として、保健での「結婚生活と健康」に関する学習内容との関連を図った課題の解決や探究活動を行うことが考えられる。

教科等	主な学習内容・学習活動
保健 体育	<p data-bbox="336 248 667 309">生涯を通じる健康</p> <p data-bbox="336 327 596 360">妊娠・出産と健康</p> <ul data-bbox="336 371 1430 566" style="list-style-type: none"> ・ 結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には、年齢や生活習慣等が関わることを理解する。 ・ 結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考える。 ・ 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に、主体的に取り組む。

教科等横断的な指導の工夫

教科等	主な学習内容・学習活動
生物	<p data-bbox="336 763 708 824">遺伝情報の発現と発生</p> <p data-bbox="336 853 691 887">動物の配偶子形成と受精</p> <ul data-bbox="336 898 963 931" style="list-style-type: none"> ・ 配偶子形成と受精の過程について理解する。 <p data-bbox="336 943 563 976">初期発生の過程</p> <ul data-bbox="336 987 1142 1021" style="list-style-type: none"> ・ 卵割から器官分化の始まりまでの過程について理解する。 <p data-bbox="336 1032 627 1066">発生と遺伝子の発現</p> <ul data-bbox="336 1077 963 1111" style="list-style-type: none"> ・ 細胞の分化と形態形成のしくみを理解する。 <div data-bbox="357 1122 1406 1547" style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="384 1144 711 1178">性に関する指導の視点</p> <p data-bbox="384 1189 1385 1312">動物の個体の始まりは卵と精子が受精して生じる受精卵という1個の細胞であり、受精卵から個体が形成される過程について理解できるようにする。</p> <p data-bbox="384 1357 775 1391">ワンポイントアドバイス</p> <p data-bbox="384 1402 1385 1525">卵子、精子、受精卵それらの一つ一つの細胞の目的は、命をつなぐことであり、動物の発生に関する学習を通して、妊娠や出産が奇跡であると言われる理由について理解することができます。</p> </div>
家庭 総合	<p data-bbox="336 1594 660 1655">子どもと共に育つ</p> <p data-bbox="336 1671 464 1704">命を育む</p> <ul data-bbox="336 1715 1430 1794" style="list-style-type: none"> ・ 命に対する責任や社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 <p data-bbox="336 1805 655 1839">子どもの育つ力を知る</p> <ul data-bbox="336 1850 1430 1928" style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 <p data-bbox="336 1939 560 1973">子どもと関わる</p> <ul data-bbox="336 1984 1430 2040" style="list-style-type: none"> ・ 子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。

	<p>子どもとの触れ合いから学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方を観察する。 <p>これからの保育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>性に関する指導の視点</p> <p>青年期の課題である自立について理解を深めるとともに、命に対する責任や社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解できるようにする。</p> <p>ワンポイントアドバイス</p> <p>乳幼児との触れ合い体験や交流活動、視聴覚教材等を活用し、命と向き合い、命の大切さについて考えることで、自他の命を尊重する態度を育むことができます。</p> </div>
家庭 総合	<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">生涯を見通す</div> <p>人生を展望する</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解しよう。 <p>目標を持って生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>性に関する指導の視点</p> <p>「結婚」、「出産」、「仕事」について、日本の現状や制度を知るとともに、自分らしく生きるためには、様々な人の生き方を尊重し、共に生きることの大切さを理解することができる。</p> <p>ワンポイントアドバイス</p> <p>「過去・現在・未来年表」を作成し、「結婚」、「出産」、「仕事」等自分の将来について考え、意見を共有することを通して、いろいろな人の生き方を尊重し、自分らしい生き方について考えることができます。</p> </div>
特別 活動 ★	<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">生まれる命について考える</div> <p>自分は何にも代えがたい存在であることを自覚し、他人を思いやる気持ちを深め、性に関する様々な問題に気づき、協働して解決に向けて取り組む。</p>

総合的 な探求	<p style="text-align: center;">生命の尊厳と医療や介護の現実（生命・医療）</p> <p>横断的・総合的な学習として、保健体育科「結婚生活と健康」に関する学習内容との関連を図った課題の解決や探究活動を行う。</p>
------------	---

命はかけがえのないものであることに気付くとともに、自分の行動への責任感や相手異性を理解したり尊重したりすることが必要であることを理解することができる。

性に関する課題や受精、妊娠、出産についての課題を発見し、課題を解決するための方法について話し合うことを通して、多様な他者の価値観を受け入れるとともに、自分の生き方について主体的に考え、選択する態度を育むことが期待できる。

指導事例 7 生まれる生命について考える

対象：第3学年

教科等：特別活動

★教育課程上の位置付け

特別活動 ホームルーム活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長および健康安全

ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を発揮し、コミュニケーションを図りながらよりよい集団生活をつくること。

1 題材の目標

人間としての在り方や生き方について考え、自他のよさを認め合い、夢や希望を持って共に協力し合える人間関係を築くことができるようにする。

2 題材について

第3学年は、卒業後に社会で生活していくための準備期間として、将来設計について深く考える時期である。また、生涯を通じて豊かな人間関係をつくり、差別のない社会づくりについて理解を深める必要がある。妊娠、出産・育児、流産・死産、不妊、障害等のテーマを通して、生命が生まれ亡くなるということについて考え、多様な意見をもとに自ら判断し、適切に行動できるようにすることをねらいとする。

3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
妊娠から出産までの経過と親の気持ちや生活の変化等について理解する。	○各教科における指導内容の振り返りやドキュメンタリー映像等の視聴により確認させる。

4 本時の指導

(1) 目標

自分は何にも代えがたい存在であることを自覚し、他人を思いやる気持ちを深めるとともに、性に関する様々な問題に気づき、協働して解決に向けて取り組むことができるようにする。

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 生まれる命から生き方を考える。	○過去と現在の人口動態統計等を比較させ、妊娠・出産が尊いものであることに気付かせる。

	2 前時の妊娠・出産についての学習を振り返り、ワークシートに記入する。	
	生まれ亡くなる命から人間の在り方や生き方を考えよう	
さぐる	3 流産や死産について理解を深める。	○人工妊娠中絶と流産・死産を経験した夫婦の気持ちを考えるよう促す。
	4 障害について考える。	○様々な障害があることに触れる。 ○出生前診断に触れる。
	5 不妊治療をしている人の思いを知る。	○妊娠には適した時期があることを確認する。 ○不妊には、加齢のみならず、男性が原因となることもあり、女性だけの問題ではないため、男女ともに関係があることをおさえる。 ○生命倫理と医療技術の高度化を確認する。
見つける	6 伝えたい対象を想定して、メッセージを書く。	○個々にかげがえのない命について振り返り、不安や感謝の気持ちを表現させるよう促す。
	7 グループワークを行う。 幸せに生きていくために必要なことやできることを話し合う。	○できるだけ多くの意見を出すよう促す。その際、出た意見を批判せず、他の人の考えに自分の考えを足してもよい。
	8 グループでまとめ、発表する。	○数人に発表させ、気づきがあった場合は追加して、発言させる。
決める	9 授業を振り返り、自分は将来、どのように過ごしていきたいかをワークシートに記入する。	○新たに気付いたことや将来設計を確認させ、意思決定を促す。

5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
メッセージポスターを作成する。	○伝えたいメッセージを含め、協働してポスターを作成し、文化祭等で展示発表をさせる。

6 指導のポイント

学習内容については、事前に学校全体で共通理解を図り、生徒の実態や個別相談の体制を確認するとともに、保護者の理解を得るようにする。各教科における指導内容やドキュメンタリー映像等を使用し、説明する。授業の導入では、自分の過去や将来を想起し、辛くなった場合には、我慢せず申し出るように伝える。

⑫

「生まれる生命について考えよう」

生まれてきたかけがえのない生命のつながりやパートナーシップ、
自分と他人を大事にするということについて考えよう。



年 組 番 氏名

- 1 それぞれのテーマについて、問題点や課題、人の気持ち等を踏まえて、考えたことを書きましよう。

①「妊娠・出産 子供が生まれるということ」

②「流産・死産 子供を亡くすということ」

③「障害があるということ」

④「不妊 望んでも授からないということ」

- 2 1で書いたことを伝えたい対象をイメージして、今の自分の気持ちを表現しましょう。

伝えたい対象

メッセージ

3 1、2で書いたことを踏まえて、グループで話し合しましょう。

①すべての人が幸せに生きていくために、大切なことや必要なことは？

—自分の意見—

—グループの意見—

②そのために「自分たちができること」は？

—自分の意見—

—グループの意見—

—まとめ—（発表しよう）

4 各グループの発表や学習全体を振り返り、自分の将来をどうしていくのかを書きましょう。

5 授業を振り返り、生まれる命について深く考えることができましたか？当てはまるものに○を付けましょう。

【 とてもできた ・ よくできた ・ まあできた ・ あまりできなかった ・ できなかった 】

指導事例 8 家族のかたちとこれからの人生

対象：第3学年

教科等：特別活動

★教育課程上の位置付け

特別活動 ホームルーム活動

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

Ⅱ 主体的な進路の選択決定と将来設計

適性やキャリア形成などを踏まえた教科・科目を選択することなどについて、目標を持って、在り方生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考えること。

1 題材の目標

社会の一員として未来に展望を持ち、多様性を尊重した共に生きる暮らしやすい社会について考え、自己実現に向けて取り組むことができるようにする。

2 題材について

様々な家庭環境で育ってきた生徒たちが、自らの将来について具体的に考え、生き方を選択していくに当たっては、自己の家族の在り方のみならず日本社会の現状を客観的に理解する必要がある。ドキュメンタリー映像を通して、情報が氾濫し、価値観が多様化している現代社会において、ひとり親や里親、養子縁組、児童養護施設等様々な環境で育つ子供がいる背景や社会福祉制度等の在り方について考えさせたい。また、将来の生活における社会の一員としての役割や活動を知り、責任と自覚を持って主体的に判断し、行動できる態度を育むことをねらいとする。

3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
自分自身のライフプランを考える。	○過去から未来についてその時々を描いていた夢も記述させ、心の変化を確認する。

4 本時の指導

(1) 目標

家庭や地域社会における性に関する諸課題について理解を深め、性差や個人差を尊重した自分らしいよりよい生き方について考えることで、自ら意思決定や行動選択ができる態度を身に付けることができるようにする。

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 本時のねらいを知る。	○基本的人権のもとで多様な価値観があってもよいことをおさえる。
さぐる	2 事例を通して、若者の性に関する現状と課題を知る。 ・未受診妊婦 ・育てられない親、育ての親 ・親のいない子供 ・梅毒の増加 等	○生まれた生命を守ることに確認する。 ○性交渉を持つことは、互いの人生や生命に大きな責任が伴うことを理解させる。
見つける	3 多様化する家族のかたちを知り、その背景についてグループで話し合う。 4 日本の保健サービスや社会福祉制度について、グループで話し合い、ワークシートに記入する。 5 社会の在り方と今後の自分の生き方についてグループで話し合う。	○結婚や離婚、ひとり親家庭、再婚、未婚等に係る男女別件数等のデータを提示する。 ○妊娠した場合、早期に相談することの重要性と生物学的男女差を踏まえた選択の自由について触れる。 ○各教科における既習内容を振り返らせ、社会には、生涯にわたって利用できる支援体制や相談体制があることを確認する。 ○レッドリボン運動やオレンジリボン運動、パープルリボン運動等様々な支援の輪や啓発活動があることを伝える。 ○高校生がポスターモデルや各種イベントに参加していることを知らせる。
決める	6 自分らしいよりよい生き方をワークシートに記入し、発表する。	○若い世代の意識や行動は、今後の未来に大きく影響することをおさえ、意思決定を促す。

5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
○啓発活動等について理解を深め、興味を持った活動を行う。	個人や集団で啓発活動ができるよう、実践の場を設ける。

⑬

6 指導のポイント

学校全体で共通理解を図り、生徒の家庭環境やこれまでの体験等の実態を把握するとともに、事前に保護者の理解を得る。また、男女の役割意識に偏らず、生き方については、誰もが自分で選択し、いつからでも決めることができることを押さえる。授業の導入では、自分の過去や将来を想起し、辛くなった場合には、我慢せず申し出るように伝える。

ワークシート 「家族のかたちとこれからの人生」

年 組 組 氏名 ()

メンバー氏名

進行 :

記録 :

発表 :

- 1 現代の社会にはどのような家庭や家族のかたちがあるのでしょうか。資料をもとにその件数等から男女差や個人差について考え、その背景にどのような理由や課題があるのかまとめてみましょう。



◎様々な家庭や家族	◎その背景 1 (理由)	◎その背景 2 (課題)

- 2 日本の社会にはどんな保健サービスや社会福祉があるのか整理してみましょう。

<p>① 保健行政 :</p> <p>② 医療制度 :</p> <p>③ 社会福祉 :</p>

- 3 国や民間企業が行っている啓発活動や個人が参加できる運動にはどんなものがあるのでしょうか。

--

⑬

4 学習を通して「わかったこと」についてグループで話し合い、これからの未来に向けて「社会に求めるもの」と「自分たちができること」というキーワードを用いて意見をまとめ、発表しましょう。

◎わかったこと（気付いたこと）	
◎社会に求めるもの	◎自分たちができること
◎まとめ（発表）	

5 学習全体を振り返って、「自分が求めるもの、これからの自分に期待すること」を書きましょう。

--

教科等	主な学習内容・学習活動
特別活動	<p data-bbox="336 248 863 309">家族のかたちとこれからの人生</p> <ul data-bbox="336 315 1433 461" style="list-style-type: none"> ・ 家庭や地域社会にある性に関する諸課題について理解を深め、性差や個人差を尊重し自分らしいよりよい生き方について考え、自ら意思決定や行動選択を行う。

教科等横断的な指導の工夫

教科等	主な学習内容・学習活動
公共	<p data-bbox="336 663 1107 723">公共的な空間における人間としての在り方生き方</p> <p data-bbox="336 730 692 768">青年期と自己形成の課題</p> <ul data-bbox="336 775 1433 857" style="list-style-type: none"> ・ 青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察する。 <div data-bbox="352 887 1406 1384" style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p data-bbox="384 920 711 958">性に関する指導の視点</p> <p data-bbox="384 965 1358 1093">青年期は自立を図る重要な時期であることを理解し、自己形成の課題について考えることで、社会の一員としての自分の生き方を選択し、自己実現をめざすことができる。</p> <p data-bbox="384 1133 775 1171">ワンポイントアドバイス</p> <p data-bbox="384 1178 1358 1350">青年期の課題を自らの人生の中に位置付け、家族や友人等周囲の人々との関わりから捉え、望ましい人間関係の構築を図ることに関連付けて考えることで、自らを成長させながら社会の中で主体的に生きていくための人生観の基礎を培うことにつながります。</p> </div>
家庭総合	<p data-bbox="336 1424 788 1485">青年期の自立と家族・家庭</p> <p data-bbox="336 1491 528 1529">人生をつくる</p> <ul data-bbox="336 1536 1433 1619" style="list-style-type: none"> ・ 生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、様々な生き方について理解する。 <p data-bbox="336 1626 655 1664">家族・家庭を見つめる</p> <ul data-bbox="336 1671 1433 1798" style="list-style-type: none"> ・ よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・ 社会制度としての家族や家族と法律を理解する。 <p data-bbox="336 1805 724 1843">これからの家庭生活と社会</p> <ul data-bbox="336 1850 1433 2000" style="list-style-type: none"> ・ 誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結び付きについて理解する。 ・ 誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造するにはどのような社会を実現すればよいかを考える。

性に関する指導の視点

自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考えることで、青年期の課題である自立や平等と協力、意思決定の重要性について理解を深めることができる。

👉 ワンポイントアドバイス

実例等を提示することで、家族形態の変化や将来の家庭の在り方、ワーク・ライフ・バランスの考え方を取り入れた職業選択の在り方についてより具体的に考え、ライフプランを意義あるものにするにつな갑니다。

青年期は自立を図る重要な時期であること、平等と協力、意思決定の重要性について理解することができる。

また、青年期の発達課題について話し合うことを通して、様々な生き方を尊重し、共に生きることの大切さに気付くことで、適切な自己の意思決定に基づき、責任を持って行動し自分らしく生きる態度を育むことが期待できる。